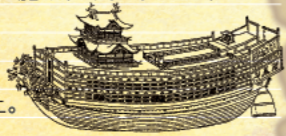


安宅丸関連年表

西暦元号	出来事
1598 慶長3	和田湯（鎌堀りの湯）浴舎建設。秀吉没す。
1600 5	オランダ船リーフデ号漂着。 徳川家康、ウィリアム・アダムス（後の三浦按針）を大阪城に引見。関ヶ原の合戦。
1605 10	江戸城築城石の採石始まる。（～1639） この頃、三浦按針が伊東で洋式帆船を建造する。（80・120トンの2隻）
1606 11	江戸城本丸御殿なる。
1609 14	家康、西国大名の五百石積以上の大船を没収し、建造・所有を禁ずる。 前ルソン総督ドン・ロドリゴ、上総に漂着。 有馬晴信、長崎でポルトガル船を撃沈。
1610 15	ドン・ロドリゴ、按針の建造したサン・ヴェナ・ヴェンツラ号（120トン）を建造する。
1612 17	スペイン船サン・フランシスコ号司令官セバスチャン・ビスカイノ、秀忠の相談を受け、伊東でサン・セバスチャン号（100トン）を建造する。
1614 19	このころ採石の最盛期を迎える。
1615 元和元	大阪夏の陣。豊臣氏滅ぶ。
1616 2	家康没す。欧船の来航を平戸・長崎に制限。
1623 9	秀忠將軍職を辞し家光これを継ぐ。
1630 寛永7	家光御座船天地丸建造。
1631 8	向井将監忠勝、 秀忠より安宅丸建造を命ぜられる（大猷院殿実記）
1632 9	向井将監、家光の命により安宅丸建造に着手。 秀忠没す。
1634 11	安宅丸竣工江戸へ回航。装飾を施される。（～1635） 東照宮大造営始まる。
1635 12	家光安宅丸に初乗船。
1636 13	日光東照宮完成。
1650 慶安3	和田湯、江戸城に「御前湯 献上」。
1651 4	家光没す。
1682 天和2	將軍綱吉の命により安宅丸解体される。



安宅丸の航跡を追う

安宅丸旧跡（東京都江東区新大橋1付近）

安宅丸の由来を記した碑が新一公園に建てられている。

浄心寺（東京都江東区平野2-4）

万治元年（1658）創立。寛永12年（1635）、家光が安宅丸に乗船した際、美声で知られた中村座の元祖猿若（中村）勘三郎を船首に立たせ水夫の音頭をとらせたことから、勘三郎はこの褒美として幕府から金の鷹（采配・指図旗）と陣羽織を拝領したとされる。安宅丸が解体されたとき船に祠であった妙見菩薩を縁のある勘三郎に贈った。それを中村座座主から贈られた初代中村歌衛門が浄心寺に寄付した。

中央寺（東京都江東区南砂4-15）

寛永7年（1630）深川御船蔵町（新大橋2付近）に創立。安宅丸解体の時、船中にあった守護の大日如来を中央寺に移す。寺は昭和23年（1948）に現在の地に移転した。

日光東照宮

家光の三大建造物は、安宅丸・日光東照宮・寛永寺だが、寛永寺も幕末の上野戦争や太平洋戦争の空襲時にその堂社の殆どを失っているため、家光の豪華巨大建造物で今日見ることができ、安宅丸の豪華さを想像できるのは、先頃、世界遺産になった日光東照宮だけである。

安宅丸をめぐる伝説など

安宅丸はその巨大さや豪華さから、解体後様々な伝説が生まれ、また講談や歌舞伎の題材になったり、例えに使われた。伊東では「むかしむかしあったとき」という昔話集や「伊東の民話と伝説」に取り上げられている。また、江戸時代中期の東都奇談でも蔵に納められた安宅丸が毎夜「伊豆へ行く」と叫んだという話が記されている。また江戸の船蔵で夜な夜な「伊豆へ行く」と、うなだつたという俗説に基づいて「ただをいうこと、無理をいうこと、またその人」の意で、「いきいきと伊豆へ行くとあたけ丸」「名代に外へ行ふとあたけ丸」、また、安宅丸は取壊されて焼却されたこと、「あたける」とは暴れ廻るの意であることから「妬くこと、嫉妬すること」の意で「御亭主が猪牙（吉原通いの猪牙船＝亭主が吉原に遊びに行った）で女房安宅丸」などがある。現代では、高木彬光作「長崎差大名」や柴田練三郎「曲物時代」にも登場する。

<黄門記童幼講釈第二幕(写真)>

明治10年（1877）12月、東京新富座で初演された『黄門記童幼講釈』（河竹黙阿弥作）で安宅丸は「伊豆へ行く」と夜毎になく世間で評判の幕府の御用船として登場し、その取壊しに関するの賄賂話が物語の中心になっている。

※このマップは、石井謙治氏が執筆あるいは編集された『和船』2（法政大学出版局）、『船』（世界文化社）、加藤清志氏の『安宅丸を追って』（伊豆新聞掲載）を資料に作成いたしました。安宅丸については未だわからないことも多く、情報をお持ちの方は是非資料をご提供ください。

安宅丸を探る・・・

◇建造を命じたのは秀忠？家光建造説が伝わる理由は？

家光の伝記『大猷院殿御実記』の寛永8年（1631）の条に「船手頭向井将監忠勝大御所（秀忠）の仰を蒙り、伊豆伊東の湊にまかり、安宅丸といふ大船を造立す」とあり、秀忠の命令で造ったとされている。しかし、翌年秀忠が没したこと、施されていた豪華な装飾が如何にも派手な装飾趣味をもつ家光によるものと思われたことから、家光の建造とされたのではないだろうか。



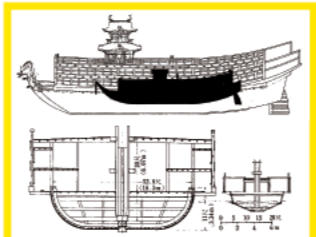
徳川家光



徳川秀忠

◇建造の意図は？

大阪夏の陣から16年、徳川幕府の基礎は固まりつつあったものの幕府の西国大名への警戒心は強く、秀忠は江戸防衛のために実戦的な不沈艦として安宅丸の建造を命じたと考えられる。推定排水量1700トンで漕ぎ手は200人。幕末まで將軍の御座船だった天地丸（100トン）の漕ぎ手が76人だったことを考えると要塞的な役割を担わせるつもりだったのではないだろうか。続々と訪れる外国船に対しての策でもあったのでは…。



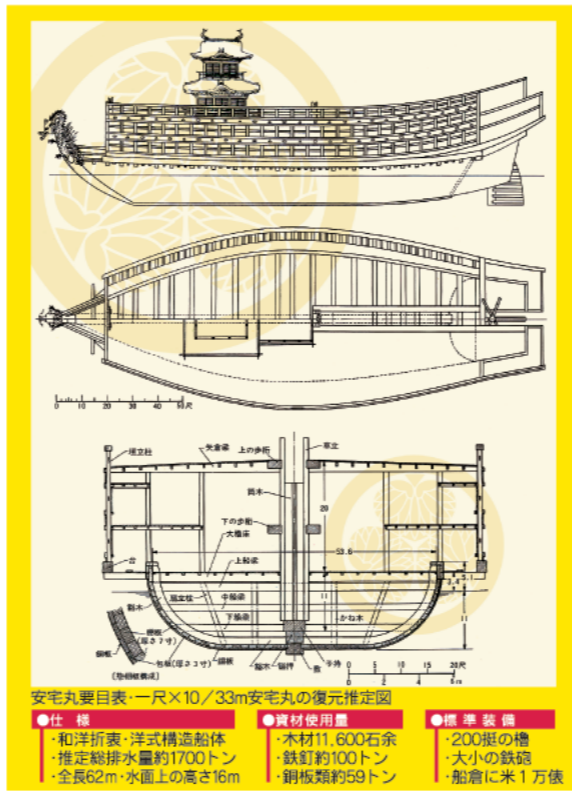
安宅丸と天地丸側面形の比較、断面の比較
※天地丸は1630年に建造された家光の御座船。76丁立、全長34メートル、排水量約100トン。

◇本当に伊東で造られた？

『大猷院殿御実記』他で安宅丸建造の場所として伊東の名が記されているが、他の地名をあげる史料もあり、安宅丸建造の伝説を持つ地域も幾つかある。

船型と構造から考えてみよう。安宅丸の実体を解明する史料として、東京大学史料編纂所に『安宅丸御船仕様帳』と『安宅丸御船諸色注文帳』という2冊が現存する。下図はその2冊の史料や数種の絵図を参考に、和船の研究で名高い石井謙治氏によって作られた復元図である。石井氏によれば、幅97cm、厚さ67cm、長さ37.9mの巨大な竜骨に多数の肋骨を配し、厚さ21cmの棚板を張り詰めた構造は西洋式。その上を防蝕・防火のための銅板で包んであり、船体の防蝕用銅板張りは世界最初の例という。しかし4段に配した船梁や大櫓床や巨大な総矢倉は日本式であり、安宅丸は洋式構造を基本とした和洋折衷の形式の船といえる。つまり、安宅丸建造には洋式船建造の経験や技術を持つ船大工が必要不可欠だが、伊東では安宅丸建造にさかのぼること10～20年前の間に3隻の洋式帆船が建造されており、その建造に関わった船大工が多数存在したはずで、伊東での建造の確固たる裏付けと考えられる。

また「熱海名主代々手控」には『阿武丸造船年月』の項があり、安宅丸が伊東で作られ、その完成時には、人足が伊豆の国中から、また引船が河津から網代までの浦々から出たとの記録がある。



安宅丸要目表 一尺×10/33m安宅丸の復元推定図

仕様	資材使用量	標準装飾
・和洋折衷・洋式構造船体	・木材11,600石余	・200根の櫓
・推定総排水量約1700トン	・鉄釘約100トン	・大小の鉄砲
・全長62m・水面上の高さ16m	・銅板約59トン	・船倉に米1万俵

◇他地域にもある安宅丸建造の伝承。安宅丸は秀吉から奪い取ったという伝承は？

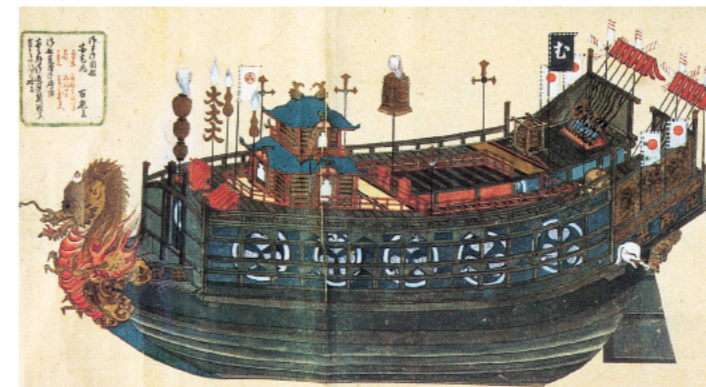
『北条五代記』の駿河湾海戦のくだりによれば、北条氏には10艘の安宅船があったという。安宅船は室町時代末期から江戸時代初期の水軍を形成した攻撃力や防御力に秀でた軍船。伊豆のあちこちでも安宅船が造られたことは想像に難くない。秀吉の朝鮮出兵の際には多くの大安宅船が造られたと考えられ、慶長14年（1609）に家康が西国大名の五百石以上の大船の所有を禁じ、それらを没収した。つまり、「安宅丸」は伊東で建造されたこの一隻だけなのだが「安宅船」と混同されていると思われる。



肥前名護屋城屏風に描かれた「大安宅船」

◇安宅丸の装飾は？

安宅丸の装飾は正に豪華を極め贅をつくしたものであったらしい。伊東から江戸に曳航された後7ヶ月を経て、家光が試乗していることから、その間に装飾が施されたと考えられる。石井氏によれば『安宅丸御船使用帳』『安宅丸御船諸色注文帳』から、船首には5.5mに及ぶ竜頭、船尾の周りには両側面に1.8mの獅子が3匹ずつ、船尾正面にも1.5mの獅子が2匹、



幕府御船手御用絵師 今川乾隆筆「安宅丸」

その周囲は唐草彫り物で装飾され、総矢倉船尾面には孔雀の彫刻、下側には象の鼻の彫り物。それら彫り物全ては金泥・朱・紺青・胡粉で極彩色を施されていたという。総矢倉の上の天守も金の鯨が輝き、数えきれない程の彫り物や飾り金具で装飾され、漆の塗装は実に3850坪に及んだというのである。この

作業が行われたのは日光東照宮の大修理の時代であり、デザイン等共通する所が多いという。東照宮の陽明門のような装飾をされた巨大船が江戸の海に浮かんでいるのを想像してみよう。きっと絢爛豪華なその姿は、物見遊山の対象であり、様々な伝説が生まれたというのも頷けるのである。



日光東照宮陽明門

◇安宅丸の末路

実直な秀忠と、生まれながらの將軍といわれた家光。二人の魂を吹き込まれた安宅丸は、政治の安定やその莫大な維持費のため將軍綱吉の命により天和2年（1682）に解体された。

図版出典
石井謙治著『和船』2（法政大学出版局）
石井謙治責任編集『復元日本大観』4 船（世界文化社）

ATAKEMARU WALKING MAP



安宅丸コース

伊東市健康保養地づくり実行委員会

ゆったり湯めまちウォークコースエリア



- 旧街道・石切り場コース
- 巖雲山コース参照
- ① ナコウ山コース
- ② 巖雲山コース
- 安宅丸コース参照
- ③ 安宅丸コース
- 海辺とまちなみコース参照
- ④ 海辺コース
- 松川コース参照
- ⑤ 松川コース
- ⑥ 松川溪谷コース
- 健康回復ハイキング参照
- ⑦ 大平の森コース
- ⑧ 鎌田城跡コース
- 里山コース参照
- ⑨ 一善湖コース
- ⑩ 池の里コース
- やんもの里コース参照
- ⑪ やんもの里コース
- 城ヶ崎コース
- ⑫（橋立周辺）
- 城ヶ崎海岸コース参照
- ⑬（ピクニカル）
- ⑭（自然研究路）

※上記、講師の色文字のコースマップをご参照下さい。